

第9回 枚方市教育委員会協議会 会議録

開会	平成28年9月29日午前10時31分	閉会	平成28年9月29日午前11時14分		
日程番号	案 件				
【公開案件なし】					
構 成 員	教 育 長	奈良 涉	構 成 員	教 育 委 員	神田 裕史
	教 育 委 員	吉村 雅昭		教 育 委 員	谷元 紀之
	教 育 委 員	橋野 陽子	/		
説 明 員	管 理 部 長	君家 通夫	説 明 員	教育環境整備室課長 (教育施設保全担当)	黒川 清
	学 校 教 育 部 長	若田 透		教育環境整備室課長 (学校規模等調整担当)	兼瀬 和海
	社 会 教 育 部 長	中路 清		学 校 給 食 課 長 (副参事級)	前村 卓志
	管 理 部 参 事	俣野 浩一		教 職 員 課 長	大船 純之
	管 理 部 参 事 兼 次 長 兼 教育環境整備室長	益田 正治		児 童 生 徒 支 援 室 課 長 (生徒指導担当)	狩野 雅彦
	管 理 部 参 事 兼 次 長	森澤 可幸		学 務 課 長 (副参事級)	早崎 由子
	学 校 教 育 部 次 長	高橋 孝之		教 育 推 進 室 教 育 指 導 課 長	位田 真由子
	学 校 教 育 部 次 長 兼 教 育 推 進 室 長	花崎 知行		教 育 推 進 室 教 育 研 修 課 長 兼 教 育 文 化 セ ン タ ー 館 長	喜多 一友
	社 会 教 育 部 次 長	片岡 政夫		社 会 教 育 課 長	奥野 美佳
	社 会 教 育 部 次 長	山口 俊也		放 課 後 子 ど も 課 長	精木 孝充
	社 会 教 育 部 次 長 兼 中 央 図 書 館 長	藤丸 知子		文 化 財 課 長 (副参事級)	鈴江 智
	児 童 生 徒 支 援 室 長 兼 課 長 (支援教育担当)	田辺 元美		ス ポ ー ツ 振 興 課 長	五島 真紀子
	管 理 部 副 参 事	寺西 光治		中 央 図 書 館 副 館 長 (課長級)(サービス担当)	松井 一郎
	教 育 総 務 課 長 (副参事級)	小菅 徹		中 央 図 書 館 副 館 長 (課長級)(企画担当)	中道 直岐
	教 育 環 境 整 備 室 課 長 (教育施設整備担当)	藤井 禎人		記 録	教 育 総 務 課 課 長 代 理
				傍聴の人数	1 人

○奈良教育長 教育委員会協議会を開会いたします。

まず、委員それぞれの活動について、所感などを報告したいと思います。

それでは、私からご報告をさせていただきます。

私は、4点ご報告をしたいと思います。

1点目は、9月22日秋分の日でございますが、枚方市立総合体育館で枚方市こども夢基金を活用いたしましたトップアスリートとのふれあい事業を実施したということをご報告いたします。

私も参加してまいりましたが、NHKのテレビニュースでも3回にわたって放映をされたようで、今回はシドニーオリンピックの銀メダリストである篠原信一氏と、アトランタ、シドニー、アテネのオリンピックで3連覇された野村忠宏氏を招いて、お二人によるトークショーとジュニア柔道体験教室ということで実施がなされました。

この企画は、大変人気を博したようでございまして、これまでにないような応募者が多数あり、抽選で市内の小中学生120名が参加したということでございます。地元のダイコロと東海大仰星高校の柔道部の部員、あるいは顧問の先生方も協力をいただきました。

テレビで活躍されているおなじみのお二人ですが、軽妙なかかけ合いトークで参加者の笑いを誘いながら、柔道の技の基本や練習の心構えについて、メリハリのある要所を抑えた素晴らしい指導をされました。

スタンドを見ますと、参加をした子どもの保護者も随分多くいらっしやって、それ以外の市民の方々も来られたということで、市民の関心の高さがうかがえました。

2点目でございますが、市立図書館のコンピュータシステムの入れ替え作業が終了して、10月3日から一斉に再開館というご報告をさせていただきたいと思います。

市立図書館のコンピュータシステム入れ替え作業を9月中旬から2週間かけて行われましたが、作業が終了し、10月3日から一斉に図書館が再開をされます。

この市立図書館のコンピュータシステムの入れ替えに合わせて、今年度中に全ての小中学校の学校図書館でもコンピュータシステムの配置を行います。これによりまして、学校図書館の端末からでも市立図書館の蔵書を検索できるようになりますので、調べ学習などで取り寄せたい図書が子どもにも簡単にわかるようになります。

また、各学校図書館の蔵書もデータ化する予定になっております。しかし、この蔵書のデータ化というのは大変な作業になるとのことですので、各学校の教員が協力しながら適切に進めてもらいたいと思っていますところ です。

これらの取り組みにより、図書の取り寄せが容易になることで、たくさんの本を子どもたちに提供でき、これまで以上に本が好きな子どもが増えるのではないかと期待しているところ です。

3点目ですが、9月13日の火曜日に、枚方市の友好都市であります上海市長寧区から6人の市民代表団が本市を訪問された際、中央図書館の見学に来られたということでございます。

図書館では、長寧区関連の本、中日対訳本などの資料を並べた特集コーナー、昭和62年に友好交流提携をしたことにちなんで、双方で図書館に開設した長寧区文庫をご覧いただいたようでございます。参加された方は、今では中国では絶版になっている貴重な資料を大切に保管していたということを非常に喜んでいただいたということでございます。

最後、4点目でございます。これはあまり芳しいことではないのですが、9月9日、桜丘中学校で理科実験中に事故が発生して、生徒が救急搬送されるという事案がありました。緊急の校長会を開きまして、再発防止に向けて実験器具、薬品の保管、実験を生徒にさせる際の教員の適切な指導について指示をいたすとともに、指導主事が全ての小中学校を訪問して理科室と理科準備室の点検をしました。

私からは、最近あった出来事について4点申し上げました。

以上でございます。

それでは、次、吉村委員お願いいたします。

○吉村委員 9月26日に再任をいただきまして、本当にまた心新たにしっかりと枚方の教育のために頑張っていこうと。自分にしかできないことを、自分の得意分野で何か皆さん方にプラスになるようなことができればということを常に考えながら、しっかりとまた頑張っていきたいと思っております。

9月9日のことなんですけれども、敬老のつどいということで行かせていただきました。小学生による優秀作品の作文の朗読がありました。毎年、非常にたくさんの高齢者の方々が、本当に笑顔で心優しくこの作文を聞きながらほっとされています。こういう応募作品もそうですけれども、日頃から高齢者も含めて全ての人に優しい気持ちを、こういう機会の折々に、例えば作文を通じて考えるということは、すごく大事なことだということを痛感しましたので、ぜひこの素晴らしい企画は今後ともお願いしたいなと思います。

その日に、教職員の人権研修で、メセナひらかたの6階大会議室で行われましたコリアNGOセンターの金光敏さんのご講義を聞きに行かせていただきました。個人的にも金光敏さんとは人権関係で関わりまして、久しぶりにお会いしてお話を聞けるということで、それも枚方に来ていただくということで、寄せていただきまして話を聞かせていただきました。非常に枚方との関係が強いということを初めわからなくて、二十数年前の中宮中学校との交流の際、思いを持ちながら関わられたということも、その時初めて知りました。

毎日新聞等でも月2回の連載で、教育分野に関する様々な思いを語っておられる方なんですけれども、本当に心温まりました。先生方の感想文も全部読ませていただきましたが、研修という部分の原点といいますか、心を揺さぶられるといいますか、子どもと対することとはどういうことかということを実際にもう一度再認識ができたという感想文等がありまして、金光敏さんと一緒に感想文等を見させていただきました。

特に、今回のテーマとしては、「学校のサンクチュアリ～子どもの背景に迫るためのチーム学校～」というのがサブタイトルになりまして、特にパワーポイントを使うわけでもなく、本当に心を込めてお話をされておりました。いつものスタイルはそうなんですけれども、皆さん方が非常に聞き入って感銘を受けたという研修でした。その中で、私も共感をして思ったキーワードにつきまして述べたいと思います。本気で子どもの背景に気づけるかどうかがすごくポイントになってくると思います。子どもの背景をしっかりと知ることによって、そこで初めてコミュニケーションのスキルが生まれてきます。ところが、教員は、日常的な仕事の忙しさなどで、本当の背景というのはなかなかつかみきれないという部分があるので、これを1人の先生に押しつけると

いうのももちろん難しいですから、学校内の中で子どもに関わる先生方がお互いに補完し合いながら、しっかりと捉えていくということが大切だと思います。これがまさにチーム学校としての子どもの背景に迫ることだということを、本当に心を込めて自分の体験等を通じて語られておりましたので、本当に原点の人権研修だなという思いでおりました。この気持ちをぜひともまた機会あるごとに、こういう研修等も企画していただいて、自分の折々に触れてもう一度原点に戻るということも大切だなと思いました。

以上です。

○奈良教育長 ありがとうございます。

それでは、続きまして、橋野委員をお願いします。

○橋野委員 私は9月3日に交北小学校の土曜参観に行かせていただきました。

江田校長先生に1クラスずつ丁寧に説明していただき、研修熱心な先生方が多く、子どもたちも落ちついて授業が受けられているように感じました。先生方の字がとてもきれいで、どのクラスも落ち着いていたように思えました。先生方の字がきれいということは、落ちついて授業を進めておられるということだと思いました。留守家庭児童会のトイレの工事のため車両が運動場を通るということで、少し心配したのですが、しっかり配慮されているようでした。

9月10日には、山田小学校の土曜参観にも行かせていただきました。これまでたくさんの子どもの成長を見てきてくれた樹齢100年のユリの木が学校の真ん中にあり、伝統のある学校でした。麻生校長先生は、今年から山田小学校に勤務をされているにも関わらず、子どもたちが校長先生に話しかけていたり、とても和やかな雰囲気でした。参観に来られたご父兄、これから小学校に来られる子どもたちでもう廊下はとてもいっぱいでした。

9月9日には、枚方市市民会館にて敬老のつどいに行かせていただき、作文発表では、枚方小学校5年生の女子児童と西長尾小学校の6年生の男子児童によるおじいちゃんたちのお話を聞かせていただき、とても感動しました。2人とも堂々としっかりしていて、心に伝わるいい作文でした。

枚方には、65歳以上の方が10万人近くおられ、100歳以上の高齢者が141人おられるそうです。私の周り的高齢者の方々も元気で自立し、自らスポーツやカラオケ、地域の方々とラジオ体操など進んで参加されているように思います。高齢者というにはまだまだ早く、元気にされている方もたくさんおられる中、人々とふれあい生きる喜びを見つけていただきたいと感じました。

以上です。

○奈良教育長 ありがとうございます。

神田委員、よろしくをお願いします。

○神田委員 それでは、私からは2点お話ししたいと思います。

1点目はタブレットの学習システムのこと。2点目は授業改善についての所感を述べたいと思っています。

1点目は、タブレット学習システムについて。9月2日にICT機器のタブレット学習システムの説明会の案内をいただきまして、参加をいたしました。管理部教育総務課が今後導入される予定のタブレット及びそのソフトについて、学校現場にあったものを様々な角度から検討をして

いただいているとのこと。また、ICT機器の導入については、私が第6回の所感で述べたことも考えていただいていることに非常にうれしく思っております。今後、学校教育部とさらに連携を密にさせていただいて、進めていただきたいと思います。

2点目は、授業改善についてお話しさせていただきます。

これは、土曜等の授業参観をしたことを踏まえてのお話をさせていただきます。9月の土曜授業では、明倫小学校、蹉跎西小学校に行き、参観の後、2時間近く時間を割いていただきまして、校長先生とゆっくり話をすることができました。そのことと関連するのですが、私が9月に算数、数学の研究会に行ったことを先にお話しさせていただきたいと思います。

その研究会は奈良教育大でありまして、当日は、埼玉大学の二宮裕之教授が来られまして、アメリカから若い研究者を連れてこられました。この二宮教授は、私が小倉小学校の校長で、文部科学省の研究指定を受けていた時に、山梨大学の中村享史教授とお二人で2年間指導を受けた先生です。その頃から日米の学者や現場の先生方と授業研究について共同研究をされているということをお聞きしていました。今回、その研究会に若い研究者が来られたのは、日本の教職員、先生方が教材研究をどのように捉えているのか、直接現場の声を聞きたいということで、都道府県様々な所の教室を回られるということでした。この質問に大学の教授も参加しておりましたので、教授、准教授、また現場の小中学校の先生方が教材研究をどう捉えるかということで、それぞれ答えられていました。もちろんその捉え方はいろいろありましたが、共通していることが1点ありました。それは何かといいますと、教材研究の捉え方というよりも、教材研究をすることの意義ということが共通点でした。これは何かといいますと、教材研究をすることによって、日々の授業において授業展開のポイントが瞬時にわかってくるということです。私もまさにその言葉に共感を覚えました。研究授業をする。いろんな研究をする。教材研究をする際、その45分間、50分間の研究授業のためにたくさん時間をかけるわけですが、その場で終わらないで、それは日々の授業の中で教科書を見れば、どこがポイントでどういうふうに展開したら子どもがわかってくれるだろうかということが見えてくるということは、どの教師も言っておりましたので、そうだなということを改めて感じました。教材研究の最たるものが研究授業であるわけですが、この研究授業を通して授業研究をして、授業改善を図っていく。こういう流れになると思います。

十数年前からアメリカはそういう授業研究という概念がなかったんですね。アメリカと日本の授業研究にアメリカでも関心が持たれるようになって、日米の学者が現場の先生を見ることができて、相互に研究されているということです。アメリカに行ってアメリカの先生が授業研究する。アメリカの学者とか現場の先生だけで日本の授業を見るという交流を十数年されていると山梨大学の中村先生からお聞きしておりました。この授業研究とか教材研究というのは英語で訳せないもので、英語にそのまま使われています。英文の中に教材研究、授業研究という言葉があります。それほど日本の授業研究等については、今世界的にも注目をされているということです。

それに参加しながら、枚方市は今どうだろうかということを改めて振り返ってみました。枚方市の教育改革というのが平成10年から始まったわけですが、その当時、校内で研究授業をしている学校は、私が教育委員会で事務局におりましたので調べましたら、数校ですね。中学校

はほとんどされていませんでした。そこで平成12年度、ちょうど私が学校教育部の指導課長をしていて、奈良教育長が学校教育部の次長をされている時に、校長会で授業研究、いわゆる研究授業をするようにという指示伝達をいたしました。このことは非常に記憶に残っております。その後、指示伝達だけではなくて、教育委員会としては予算措置をしていくという中で、小学校のほとんどの学校が研究授業をするようになりました。平成22年頃になりますと、小学校では、ほとんどの学校が定着をしてきたということは皆さんご存じだと思います。その後、5年経ちまして、私が退職後、プランナー等で現場に行くと、さらに熱心にされている。経験の浅い先生をどんどん採用する中で、そのことを通して成長されているということは、非常にうれしく思っていたところでもあります。

ただ、中学校については、この15年間どうであったろうかと。確かに、よくなってきた学校、また向上してきた学校もあるわけですが、実質的な研究授業についてはまだまだ課題があると思っています。

今回、教育委員になりました1学期から土曜授業やオープンスクールで普段の授業を見たり、校長先生と懇談をする中で、気になったことが一、二点でありますのでお話ししたいと思います。それは、小学校で校内の研究授業をやっているけれども、講師を呼んでいないとか、外部講師を呼べてないんだという学校があったんです。私は、初め意味がわからなかったんですけれども、なぜかといいますと、確かに全ての学校に指導に行けないわけですが、来てもらう、いわゆる枚方市教育委員会の指導主事が講師で来てもらえるのは、教育研修課所管の確かな学び育成サポートプランの指定を受けている10中学校区の小中学校であるということです。それ以外は来てもらえないということです。

もう一つは、この指定を受けていないに関わらず外部講師を招聘する場合、学校園活性化事業を講師で呼ぶわけですが、中学校区に予算が配分されると。そしてそれを同じ中学校区の小学校、3校であれば中学校と4校で話し合っって予算を配分していくということで、小学校では校長が特にそういう講師を呼ぶことについては、非常に手間がかかり、非常に難儀をしているということを1学期から聞いておりました。ある学校では、校長自らが講師となって研究授業をさせていると。またある学校では、大学の講師を招聘すると1回教授で3万円がかかりますから、2回呼んだら6万円になり、これ以上また中学校区の指定を受けていないので呼びにくいということで、どうしてるんですかと聞くと、講師は呼ばないで校内で教員だけでやっていると。こういうような実態の話をお聞きしました。

やはりこういう状況を聞く中で、どの学校も、小学校は特にやっという姿勢があるわけですので、回数だけは問題ないと思いますね。量と質の問題があると思います。その中で、先ほどもお話ししましたように、小中学校では、特に校内研修で教材研究をして、そして研究授業を行って、授業研究が組織的に行える。そのためには、やはり外部講師を計画的に招聘できるように教育委員会が指導や支援をしていく必要があると。もちろんそれに答えるように教育委員会もされたと思いますけれども、現実的にやはりそういう課題があるということを訪問しながら感じました。

小中学校それぞれの研究授業を通した授業研究を高めることが、今枚方市が求められている授

業改善が進みますし、小中一貫教育も進むと思います。また、個人の教師の力量とか組織力の向上に私はつながると思います。事務局にお聞きしますと、いろいろ今年度の取り組みの中で検討されているということをお聞きしておりますので、今の時期、来年度の事業の予算策定の時期ですので、学校のヒアリング等を踏まえて、改善するべきところは見直していただけたらと思います。

この十数年、枚方市の小学校では、算数や国語科を中心に研究授業を熱心に行われて、経験の浅い教員も育ってきていると思っております。ただ、中学校の校内の研究授業が小中一貫教育を導入した要因でもあるわけですが、より深めていく必要があるということも改めて思っております。

宮城教育大学の相澤教授という方が5年前に桜丘中学校の校内研修に来られて、ちょうどプランナーをしていて、その講演を聞く機会がありました。この時に言われた言葉は非常に印象に残っておりまして、相澤教授は、元宮城県の中学校の先生で、文部科学省の教科調査官をされた後、教授をされているわけですが、その先生がこういうことをおっしゃいました。学習指導は生徒指導になると。積極的な生徒指導ですね。道徳の模擬授業を教職員にされたんですけども、非常に感銘を受けた模擬授業をされたわけです。まさに学習指導は生徒指導だなということを感じました。

校内研修の意義としては、研究と修養ということがよく言われています。その校内研修の意義というのは、私は新任の頃に勉強して教えられたのが、教師の専門性と人間性を育成することであると。私は、研修というのはそういう専門性だけではなくて、人間性を高める意味もあると。そういう意味では、校内研修を通じて、枚方市の教職員の質の向上を図られたらと思っております。また、枚方市の小中学校の4分の1程度しか訪問していませんが、このことが全てと言えませんが、学校を訪問しながら現場を知っていきたくて思っております。枚方市の教育振興基本計画も出ています。その具現化を図るためにも、また校長先生のリーダーシップがより発揮できるように、またご尽力いただければということで、私の所感とさせていただきます。

以上です。

○奈良教育長 ありがとうございます。

それでは、谷元委員よろしく申し上げます。

○谷元委員 先ほどご紹介いただきましたように、私は、平成20年2月から平成25年3月末まで開成小学校の校長をしていました。その5年間、枚方市や教育委員会からは、体育館の建て替え工事やトイレの改修工事、屋上の防水工事等、学校の施設整備や環境整備を充実していただきました。また、教材教具の整備やICT機器の整備、学校園活性化予算など、教育予算などにも大変お世話になりました。鍵屋資料館をはじめ、歴史施設や文化施設、図書館、スポーツ施設など校外学習や行事などで利用させていただき、本当に感謝しております。

退職後は3年間、教育推進プランナーとして、主に初任者や経験の浅い教員の指導、市内の学校の校内研修の講師をしていました。現職の時とはまた違った経験をさせていただきました。その中で感じたことをお話しします。

初任者研修は年3回の研究授業があります。プランナーは、初任者の研究授業の指導助言に学

校に行くわけですが、授業の後、校長室で初任者を指導します。その時に、学校では校長先生をはじめ、教頭先生や首席、指導教諭、教務主任、学年主任、中学校では教科担当指導教員など、4人から多い学校では6人ぐらいの先生が指導を聞きに来るわけですが。大変熱心に指導を受けていただくので、私たちプランナーにとってもとても緊張するわけですが。初任者はもちろんとても緊張している様子です。そういう学校は、指導助言の時間をたっぷりとっていただいているので、授業だけではなく、日頃の授業や生徒指導の悩みなどを聞き、そのことも指導したりすることができ、大変有意義な時間をとっていただいていると感じました。研究授業を参観に来る他の学年の先生も多く見受けられ、初任者を学校全体で育てておられるのだと感じることが多くありました。

一方で、学校によっては、学校の事情もあると思いますが、研究授業の参観に来る先生もまばらで、授業後の校長室での指導も初任者と校長先生の2人だけという学校もありました。学校によって随分差があるのだと感じました。忙しいとは思いますが、初任者はこれからの枚方の教育を担っていく重要な人材です。校長先生を中心に学校の全職員でしっかりと観察し、支援し、育ててもらいたいと思います。校長先生によって初任者を育てようとする意識が随分違うように感じました。これは、私だけではなく、他のプランナーも同様に感じています。

また、校長先生によっては初任者だけでなく、市費負担の教員にも研究授業をさせるので、指導に来てほしいと依頼されることもありました。初任者と同じように扱い、組織的に計画的に人材を育成しようとして取り組んでおられると感じました。そのような学校は、講師の先生の授業であっても、多くの先生が研究授業の参観に来られていました。自分も勉強しようという意欲があるのだと思います。授業の途中でも研究授業の指導案を持って参観に来られていました。

当たり前のことだとは思いますが、中学校では、ほとんどの先生が担当教科でないと参観には来られず、来られていても指導案を持って来られないこともありました。そのあたりの違いがとても残念に思っておりました。

枚方市が中核市になり、市で行う研修は内容も豊富で充実してきたと感じています。これは教育委員会が教育研修課を中心に、これからの人材を育成するために力を入れておられるからだと思います。

一方、学校における校内研修についてはどうなのでしょう。研究授業中心に大変熱心に取り組んでいる学校とそうでない学校があるのではないかと感じます。校内研修の講師をして学校を訪問した時には、全国学力学習状況調査の結果を校長先生に聞くようにしていました。たいていの校長先生は熱心に資料を提示され、学校の課題について教職員で共通認識を図り、課題に向き合い、校内研修のテーマを明確にされ取り組んでおられました。ですから、研修の初めには、研究授業を行う単元と同じ内容の学力テストの問題を示しながら、授業と学力テストの関連を話し、どういったところが子どもたちにとってつまずきやすいとか、普段の授業がいかに大切であるかを説くように心がけていました。校長先生が中心になり率先して課題に取り組まれている学校と、そうでない学校があるとすれば、大変残念なことだと思います。

教育委員会の指導主事も学校現場と同様、経験の浅い指導主事が増えています。指導主事の人材育成も意図的、組織的、計画的に進めなければならないと思います。

冒頭で述べましたように、枚方市や教育委員会は、学校教育に対して必要な支援を行ってきたと思います。もちろんまだ必要なこともあるとは思いますが、北河内の校長役員会に出席し、情報交換する場では、他の市の校長先生から枚方市は財政的に恵まれていて、教育にも理解があると、いつもうらやましく思われていました。私は、枚方市で校長を務めていることを誇りに思い、枚方市や教育委員会のいろいろな支援に対して、しっかりと応えていかなければいけないという思いでおりました。

今後は、学校園だけでなく、社会教育施設やスポーツ施設、図書館などの現場を見たいと思っています。新任の委員としてしっかりと勉強をし、微力ではありますが、熱意を持って務めていきたいと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上でございます。

○奈良教育長 ありがとうございます。

本日の公開とする協議会は以上となります。